



# No. 40, February, 2018

## 日本高等教育学会ニューズレター

Japanese Association of Higher Education Research

### 目次

- ・第21回大会のご案内
- ・第21回大会課題研究報告
  - 1. 多様な研究アプローチからみた高等教育研究
  - 2. 高等教育と地域社会-相関的な政策と研究との間-
- ・2017年度研究交流集会報告
- ・研究紀要編集委員会報告
- ・第93・94回理事会報告
- ・事務局便り

### 第21回大会のご案内

日本高等教育学会  
会員各位

日本高等教育学会第21回大会を下記の要領で開催いたします。

多くの会員の皆様にご参加いただきますようご案内申し上げます。

詳細については第21回大会ホームページをご覧ください。

記

大会期間：2018年6月2日～3日  
大会会場：桜美林大学町田キャンパス  
参加申込期間：2018年2月1日～5月14日  
発表申込期間：2018年2月1日～2月28日  
要旨原稿提出期間：2018年3月5日～3月30日

日本高等教育学会第21回大会ホームページ

<http://www.jaher21obirin.com/>

※大会案内、発表要旨集録原稿作成要領・テンプレートがダウンロードできます。

日本高等教育学会第21回大会実行委員会

[jaher21@obirin.ac.jp](mailto:jaher21@obirin.ac.jp)

(第21回大会実行委員会委員長 山本 眞一)

### 第21回大会課題研究報告

#### 1. 多様な研究アプローチからみた高等教育研究

2018年度科学研究費補助金の審査区分に従来はなかった「高等教育学」関連が登場した。また1997年に高等教育学会が設立されてから20年を超えた。こうした状況の中、「高等教育学」とは何か、定義できる研究者が何人いるだろうか。もちろん、学会の一部の研究者によって「高等教育学」が提唱、探求されてきた事実はある。しかしながら、それらが完遂され、もしくは高等教育学会の中で共有されているものがあるとは言えないであろう。

こうした状況を鑑みると、改めて「高等教育学」とは

何か？を問う時期が来ているのではないかと考えた。ただし、いきなり「高等教育学」とは何かを問い始めるのも難しい。そこで、我々は金子元久会員が言う準専門領域としての高等教育研究というスタート地点から、アプローチを始めたいと思う。金子会員によれば、高等教育研究は、特定の研究対象への関心を中心に組織され、固有の論理・方法の体系を形成し、研究・教育機関において専門職を養成し、学会においてこの両者を組織するという古典専門領域 (Academic Disciplines) ではない。むしろ、具体的な対象に対する関心を共有することを基軸にするとしても、必ずしも理論・方法を共有せず、あるいはそこだけに帰属する構成員から成り立っているのではない、準専門領域であり、開かれた研究領域であることを宿命づけられているものとされる。実際に、高等教育研究の領域には、多様な研究アプローチから高等教育を行う研究者、そして実践的観点からアプローチを行う実務家など、多様なアプローチそして集団に開かれているのである。こうした高等教育研究を多様な研究アプローチや多様な立場から高等教育研究に関わる人々を含めて課題研究におけるディスカッションを通じて、高等教育研究の今後のあり方について議論していきたい。

具体的には、一定の研究アプローチが確立されている社会学、心理学、分野横断的に用いられる歴史・比較研究アプローチ、そして実践的観点からの課題解決型の研究等から見た高等教育研究の現状・課題を2年間にわたって検討する予定である。今年度は、発表者として3名の方にご登壇いただき、濱中淳子会員 (東京大学「教育社会学の経験からみた高等教育研究のポジショニング」)、井上義和会員 (帝京大学)「歴史的アプローチからみた高等教育研究」、加藤 毅会員 (筑波大学)「社会工学的アプローチと高等教育研究」という題目でご発表をいただく。また、コメンテーターは小方直幸会員 (東京大学) にお願ひし、司会は課題研究担当理事の一人、山田礼子 (同志社大学) が務める。

また濱中会員には、「教育社会学と高等教育研究」「教育社会学の経験」「高等教育研究の悩ましさ」「高等教育研究にみる希望」、井上会員には「ディシプリン問題」

「大学危機の時代と歴史的アプローチ」「歴史的アプローチの展開可能性」、そして加藤会員には「研究対象としての高等教育」「ディシプリンについて」「学際研究

の難しさ」「Social Engineering とは何か」といった観点からお話をいただくことを現時点で予定している。

これらの報告を通じて、ディシプリンという観点からみた高等教育研究、高等教育研究が置かれている時代背景、高等教育研究と競合他分野との関係、高等教育研究の特異性・他分野との共通性などが明らかになる。こうした多様な研究アプローチの交差による議論を通じて、高等教育研究はどのような強みや課題を持ち、どのような発展可能性を有しているのか、「高等教育学」のあり方も見据えつつ、高等教育研究の今後のあり方について、多様に開かれた参加者とともに考えていきたいと思う。

(課題研究担当理事 山田 礼子・島 一則)

## 2. 高等教育と地域社会—相關的な政策と研究との間—

高等教育は絶えず地域社会との関係でその姿を変えてきている。今日のわが国では、高等教育・第三段階教育システムにかかる種別化と機能別分化、将来像や将来構想などの政策議論が続けられる中で、地域に関わる教育改革インセンティブとして、GP 事業、COC、COC+、「プラットフォーム」(私立等総合改革支援事業)などの各種事業が展開されている。これら文教政策は各機関のポジショニングやその地域マネジメント範囲などにおいて OECD (2009) が日本の第三段階教育レビューにおいて「舵取りのない多様性放置」として指摘された状況が依然として継続しているともみられるが、他方で、特に国家的課題としての地方創生や、科学技術、産業、国土整備などの領域においても、第三段階教育は積極的に政策の柱として位置づけられ、むしろ有力な船頭が過剰な関連事業が展開されているとも見ることができのかもしれない。

高等教育研究において、高等教育と地域社会との関係をテーマにしたものは年々多くなってきているとはいえ、単に政策を解説するだけだったり、個別大学等における政策適用事例報告等にどまっていたりするものが少なくない。たとえ第三段階教育と地域との関係を総合的に分析した先行研究群であっても、地方創生(まち・ひと・しごと創生)などで問われるような政治・経済・社会の側からの第三段階教育への見方については十分に研究枠組に組み込んでいない。

他方で、地域経済学などの近接の学問領域においても、地域創生等の地域経済社会開発・コミュニティデザインなどの研究が進みつつあるものの、その中での大学等の第三段階教育への焦点のあて方は極めて限定的であるようにみえる。またこれら近接学問領域と高等教育研究領域との研究交流は必ずしも活発とはいえ、総じて第三段階教育と地域社会の関連システムに関する研究はまだ十分な展開を遂げていない状況にあると言える。

そこで、課題研究として、今年度から高等教育研究領域におけるこれまでの第三段階教育と地域社会との連携・交流をテーマとして、その研究動向をふり返り、今日的な研究課題と研究アプローチを探求する場を設定することとした。初年度の今回は、第三段階教育と地域に関する政策と現実、また高等教育研究としての議論の蓄

積に焦点をあて、その到達点の整理と研究課題の提示を行う。その際に、広く関連の科学技術政策、産業政策、国土政策などにおける大学・第三段階教育と地域交流・連携と、その中で期待される第三段階教育機関への役割と評価について、その今日的な動向について整理した上で、こうした地域政策と第三段階教育との関係をテーマにした研究について、地域経済学や社会学などの近接学問領域での到達点を概観することによって、高等教育研究としての現在の研究課題がどこにあるのかを議論してみたい。次年度以後、析出された課題に即応した多様なアプローチの研究モデルやその成果を提示しながら議論を深めていくこととしている。

本研究課題は、「高等教育における地域連携・交流」という、高等教育関係者が高い関心を寄せつつある研究の到達点とさらなる研究課題の析出にとどまらず、第三段階教育で見られる新たな諸現象への関心に対する研究アプローチの議論にもつながるものとなる。会員のみなさまの積極的なご参加を、期待しております。

(課題研究担当理事 吉本 圭一・稲永 由紀)

## 2017 年度研究交流集会報告

本年度の研究交流集会は、昨年同様筑波大学東京キャンパス文京校舎にて、広島大学高等教育研究開発センターの後援のもとで、12月17日(日)に実施されました。今回は4名の会員・非会員にご登壇いただき、それぞれが現在関心を持つテーマについて発表いただくことを通じ、今後の高等教育研究のあり方をフロアも巻き込んで議論しました。プログラムは以下の通りです。

### 第1報告 戸村 理 (國學院大学)

テーマ: 近代高等教育機関の経営に関する歴史的研究  
コメント 伊藤彰浩 (名古屋大学)、司会: 浦田広明 (桜美林大学)

### 第2報告 藤本夕衣 (清泉女子大学)

テーマ: 「大学改革」におけるグローバリズムの隘路と人文学の現代的意義  
コメント 羽田貴史 (東北大学)、福留東土 (東京大学)

### 第3報告 野田文香 (大学改革支援・学位授与機構)

テーマ: コンピテンスを基盤とした国家資格枠組み(NQF)に関する考察  
コメント 深堀聡子 (国立教育政策研究所)、司会: 林隆之 (大学改革支援・学位授与機構)

### 第4報告 速水幹也 (椋山女学園大学)

テーマ: 薬学教育改革以後の薬学部における機関別アウトカムに関する考察  
コメント 丸山和昭 (名古屋大学)、村澤昌崇 (広島大学)

総括・会長講話 荒井克弘 (本学会会長・大学入試センター)

本集会には、総勢 51 名（うち非会員からは 5 名）の参加者がありました。午前 11 時からお昼をはさんで夕方までの長丁場でしたが、ご発表、コメンテーターの方々のコメントそして会場を巻き込んだ議論のいずれもが刺激的でしたので、時間の過ぎ去るのを忘れてしまうくらいでした。懇親会には 21 名の参加者があり、冬ならではの温かいお鍋を囲みながら、集会での議論を持ち越し熱い議論が引き続き交わされました。

総じて今年度の集会も、盛会のうちに終えることができました。登壇者、コメンテーター、司会をお引き受けいただいたみなさま、そして参加いただいた方々に、この場を借りて御礼申し上げます。

（研究交流集会企画担当委員会 羽田 貴史・伊藤 彰浩・村澤 昌崇）

### 研究紀要編集委員会報告

2017～2018 年度編集委員会では、新たに委員の委嘱を行いました。委員会の構成は下記の通りです。橋本 鉦市（委員長・東京大学）、阿曾 昭明裕（副委員長・名古屋大学）、濱中 義隆（副委員長・国立教育政策研究所）、井上 義和（帝京大学）、北村 友人（東京大学）、杉谷 祐美子（青山学院大学）、中井 俊樹（愛媛大学）、南部 広孝（京都大学）、藤村 正司（広島大学）、朴澤 泰男（国立教育政策研究所）、水田 健輔（大正大学）、望月 由起（昭和女子大学）。

さて、次号第 21 集学会紀要の『高等教育研究』には、16 本の論文投稿がありました。現在、鋭意査読中です。また特集テーマについては、「学生多様化の現在」として 8 本の論文の寄稿をお願いしました。わが国は急速な高等教育の大衆化が進み、今日、学生層は著しく「多様化」と語られてきましたが、その内実はかならずしも一様ではありません。その意味するところを丁寧に腑分けしつつ、大学生の現状と各レベルでの対応の様態を様々な視点から批判的に相対化し、わが国のユニバーサル段階の高等教育が持つ特徴の一端を浮き彫りに出来ればと思っています。

（研究紀要編集委員長 橋本 鉦市）

### 第 93・94 回理事会報告

#### 第 93 回 日本高等教育学会理事会報告

第 93 回理事会が平成 29 年 9 月 20 日（水）14 時から 16 時 15 分に同志社大学東京オフィスで開催され、以下の事項が審議・報告された。

#### 審議事項

##### （1）前回議事要旨の確認

夏目事務局長より前回議事要旨について確認があり、承認された。

##### （2）2017 年度事業計画について

##### ①総務・財務委員会

小林理事より、山田前事務局長から資料を入手しだい、今後の方針などを検討したい旨、発言があった。

##### ②広報委員会

両角理事より、ホームページに掲載するため、過去の大会プログラム及び発表予稿集の収集に努めており、現段階では、第 1、4、7 回大会の発表予稿集が抜けている旨報告があり、その入手の方策について打診があった。

##### ③ジャーナル・オンライン化委員会

担当理事欠席のため、次回の理事会にて確認する。

##### ④紀要編集委員会

橋本理事より、当日資料にもとづき説明があり、現在進行中の事項（会長承認済み）について、承認された。

（1）第 21 集の特集は「学生の多様化と現在（仮）」とし、特集論文の執筆者を 8 名選定し、依頼中であること

（2）今後の委員会日程について

（3）英文要旨の校正担当者から辞退の申し出があり、早急に検討を要すること

（4）紀要の編集日程上、7 月開催の理事会承認では遅く、次々号の紀要のテーマについては、次回大会前日の理事会に諮る、という日程が前提となる旨、説明があった。

その他、紀要に大会課題研究の報告などを掲載する可否について、また大会の課題研究と特集テーマについて質疑があり、引き続き検討することとなった。

##### ⑤課題研究委員会

山田理事から、当日資料にもとづき説明があった。研究テーマは「ディシプリンと高等教育」。高等教育を対象とする研究領域の範囲やその方法論などを扱う。また、近年、大学職員による取組実践などの研究報告も増えていることから、教員・研究者以外の会員の「高等教育研究」に対する認識も考慮しなければならない、との提案があった。

質疑では、会長からディシプリンの条件について、また橋本理事からは、登壇候補者の中にかつて類似のテーマで寄稿依頼した研究者が含まれていること、重複を避ける意味でも、政治学、行政学、経済学など、外部の専門領域の研究者に登壇を依頼することも考えては、との発言。小林理事からは、他の学問分野の研究者に、「高等教育研究」の話を依頼することは難しいので、現在の高等教育研究の方法や対象（会員個人の研究が高等教育研究の中でどのように位置づけられるのか）に焦点をおき、学問分野としての現状（ディシプリンとしての高等教育研究）を問う方向では、という発言があった。金子理事からは、「高等教育研究」はまだ「ディシプリン」足りていないが、ようやく科研費の小区分として高等教育学関連が設けられ、一つの研究領域として認められつつあることが報告された。これから学術分野としての成熟をどう図っていくかが重要であり、今年度以降の科研費の採択状況なども見ていく必要があるとの発言があった。

もう一方の課題研究は、担当理事が欠席のため、次回の報告を待つこととなった。

##### ⑥国際委員会

米澤理事より当日資料にもとづき説明があった。委員会名称については、前期と同じく「国際委員会」とする

ことが承認された。

国際委員会として、学会の総合的な国際化を推進するべく、学会の国際化戦略・企画を推進していく。2年前から行っている「英語特設部会」については、他学会の外国語部会においても参加者が固定化されている、といった課題もあり、継続すべきかどうか、継続する場合は、そのすそ野をどう広げていくか、また研究報告の質をどう担保していくのかなど、引き続き方策について検討していく旨、説明があった。また大会校のシンポジウムや課題研究の登壇者に海外から研究者を招聘する可能性もあり、大会校や課題研究委員会と情報交換しながら進めていきたいとの発言も付け加えられた。会長からは、学会の取るべき国際化の在りかたについて引き続き検討すること、英語特設部会に必ずしもこだわらない旨、発言があった。

#### ⑦研究交流集会委員会

村澤理事より当日資料にもとづき説明があった。現在、研究交流集会の企画、候補者の選定を進めており、理事会の承認が得られれば、逐次、登壇候補者に打診をしたいとの説明があった。これらの点については異論なく、承認された。会場は、筑波大学東京キャンパスなどを候補に、東京で行うことを予定している。開催日は例年通り12月を予定。時期が差し迫っていることもあり、今後については、当該委員会を中心に会長、事務局と内容を詰めていきたいとの説明があり、了承された。この他、学術交流フォーラム(案)や高等教育研究基礎講座(案)も提示され、引き続き検討していくこととの説明があった。

#### ⑧20周年記念事業実行委員会

伊藤理事と両角理事より、印刷に向けて最終の作業段階にある旨、説明があった。10月以降会員向けに発送予定である。会長から、非会員登壇者に送り漏れがないように留意して欲しいとの確認があった。

#### (3) 2017年度第一四半期会計について

夏目事務局長より、資料にもとづき説明があった。

#### (4) その他

### 報告事項

#### (1) 第21回大会進捗状況について

大会校理事や代理人が欠席のため、次回に改めて進捗状況を確認する。

#### (2) ニューズレターについて

山崎事務局幹事からニューズレターの39号の準備状況について報告があった。提出原稿の一部に遅れが生じており、今月末に配信を予定している。また、金子理事と濱中理事から科研費の細目に「高等教育」が追加されたことをニューズレターに追記してはどうかという提案があり、事務局として対応することとなった。

#### (3) 今後の理事会日程について

夏目事務局長より、次回第94回理事会は12月22日(金)14:00-16:00に同志社大学東京オフィスで開催する予定であることが通知された。

### 第94回 日本高等教育学会理事会報告

第94回理事会が平成29年12月22日(金)14時から16時30分に同志社大学東京オフィスで開催され、以下の事項が審議・報告された。

#### 審議事項

##### (1) 前回議事要旨の確認

夏目事務局長より前回議事要旨について確認があり、承認された。

##### (2) 2017年度事業について

#### ①課題研究

山田委員及び島委員より、当日配布資料「高等教育学会課題研究(案)」に基づき説明があった。発表者候補者については質問もあったが、審議の結果承認された。なお、詳細については引き続き検討することとなった。

吉本委員より、当日配布資料「2018年学会大会課題研究テーマ:高等教育と地域社会—相関的な政策と研究との間—」にもとづき説明があった。発表テーマと発表の候補者1)、2)、4)については、審議のすえ提案は了承された。提案の3)、5)、6)については、次回の理事会にさらに検討を行うことになった。

#### ②国際委員会

米澤委員より、当日配布資料「国際委員会報告」に基づき説明があった。第21回大会時に、留学生の高等教育研究ネットワークの作りと、留学生の研究、学会参加等について意見交換する機会として、「留学生の集い」を開催したいとの提案があった。主に開催時期、場所について審議があり、提案は承認された。開催時期は第21回大会前日、場所は大会校をお願いしたいとの国際委員会の要望があり、大会校に可能性を検討してもらうことになった。内容の具体については今後さらに検討する。

山田理事より、外国語版のホームページの更新の所掌は国際委員会であったかどうか質問があり、会長からホームページ案件は広報委員会にお願いしたいとの説明があった。

#### ③研究交流委員会

報告事項(3)を参照。

#### ④広報委員会

両角委員より、要旨集のPDF化については今月中に完了予定であるとの報告があった。なお、ウェブへの掲載は過去のプログラムのみで、予稿集はアップロードせずに、事務局でデータ保存するとの確認があった。広報委員会の今後の活動についてはさらに担当理事の間で検討する予定。会長より、英文と中文版のホームページの更新について発言があった。

#### ⑤ジャーナル・オンライン化委員会

小方委員より、事前配布資料2「ジャーナル・オンライン化委員会2018学会年度活動報告(案)」にもとづき説明があった。J-STAGEへの申請手続きは完了し、掲載許可も得られた、平成30年度以降に掲載が進む予定であるとの報告があった。会長から、電子化には時間がかかるので、以前に理事会に諮られた見積もりに変更がな

ければ、電子化作業に早く着手するようとの要望があった。

ジャーナル・オンライン化後の利用については、引き続きの検討課題とすることになった。

(3) 広島大学高等教育研究開発センターの共同利用・研究拠点化について

広島大学・大学高等教育研究開発センター長の大膳氏より、当該センターの共同利用・研究拠点化の申請について学会の協力を得たいとの協力要請があった。審議の結果、会長推薦書の依頼を承認することとした。

(4) ニュースレター第40号の発行について

夏目事務局長より、近日中に事務局から執筆依頼を出すことが報告された。

(5) その他

なし

## 報告事項

(1) 第21回大会進捗状況について

山本眞一大会委員長より、資料3及び4に基づき報告があった。大会シンポジウムのコメンテーター候補として荒井克弘会長に打診があり、会長の承諾が得られた。課題研究の担当理事に対し、課題研究に関する具体的な内容の判明する日程について、打診があり、該当事項の連絡について改めて確認された。

(2) 第22回大会について

荒井会長より、山田前事務局長、夏目事務局長の尽力により、第22回大会の金沢大学での開催が決まったとの報告があった。堀井氏（金沢大学国際基幹教育院・高等教育開発・支援系教授）の紹介があり、堀井氏から資料5にもとづいて第22回大会、金沢大学開催に関する説明があった。出席理事から、宿泊施設の確保、また大学外の施設利用のため、会場で利用できる機材に制約がないかの質問があった。堀井氏からは、金沢大学の機器もしくは外部業者の活用によって対応する計画である、との回答があった。

(3) 筑波大学で開催された研究交流集会について

村澤委員長より、当日配布資料「高等教育学会理事会研究交流集会委員会 案件」にもとづき、日本高等教育学会2017年度研究交流集会の報告があった。当日参加者は非会員を含め合計55名に達したこと、研究交流集会の資料公開については、発表内容の論文化を予定して

いる者もいることから、報告書の作成、ウェブへのアップロードはしないとの説明があった。資料を必要とする理事は村澤委員に直接依頼するように、との説明であった。

吉本理事より、開催場所が2年続けて東京になったのは遺憾、とする発言があった。委員会としては検討したい旨、回答があった。その他、学術交流集会（仮）、高等教育研究基礎講座の開催等について提案（審議事項）の計画が提案されたが、会場の時間の関係で、これらの審議は次回に再度、検討することとなった。

(4) 研究紀要編集委員会報告

濱中委員より、投稿された16本の論文について現在審査中であること、また特集論文については、現在確認中だが、予定よりも数本少なくなる可能性もあることが報告された。

(5) 20周年記念事業報告書について

両角委員より、何人かの会員から報告書が届いていないとの連絡があったが、いずれも会費未払いによるものであったとの報告があった。

(6) 予算の執行状況について 第2四半期報告

夏目事務局長より、事前配布資料「第2四半期の高等教育学会予算執行状況」に基づき説明があった。とくに質問はなし。

(7) その他

なし

## 事務局便り

### 会費納入について

平成29年度会費納入を受けつけております。未納の方は、お手元にお送りいたしました郵便振替用紙か郵便局備え付けの普通払込書用紙をご利用になり、下記振込先までお送りくださいますようお願いいたします。

口座番号：01320-9-2987

加入者名：日本高等教育学会事務局

## 日本高等教育学会ニュースレター No. 40

発行日 2018年2月13日

発行所 日本高等教育学会事務局

事務局長 夏目 達也

事務局 株式会社ガリレオ 学会業務情報化センター内  
日本高等教育学会 事務局  
〒170-0002

東京都豊島区巢鴨 1-24-1 第2ユニオンビル 4F

TEL：03-5981-9824 FAX：03-5981-9852

E-Mail：g005jaher-mng@ml.gakkai.ne.jp